

令和4年7月5日(火) 博物館地域説明会(北山出張所)

<質疑応答>

・質問者①

質問：6/30の白糸の説明会では、『この計画は決定ではありません』との言葉を頂きましたが、7/1の市議会の本議会において『これは決定です』と、共産党のヨシマサさんがそういう答えをされました。そのあと企画部長が、『教育委員会の委員長が決めたことは市の決定事項です』とおっしゃいました。その時に市長が口をはさんで、『建設ありきではありません』と言っていました。その時に僕も別の資料を頂いて、真っ黒に塗られたこの資料が市から出された委員会の資料ということで、それを今度公開するようにしましょうと市長は言っていました。なぜこのような、疑心暗鬼になるような資料を出したのでしょうか。

構想計画ならいいですよ。建設決定のための決定では無いと市長が言っていました。構想の決定ならばこれからお年寄りから子供まで市民皆の意見を入れて、なるほど、こういうものを作ると残るんだねと、もっと安いものができるね、場所もこうだね、とできるのに、今日頂いたこの資料はもう全部決定ありきに感じます。

これは、もう建物を建てますという決定でしょう。

その点を一回誤解の無いように、構想の決定ならいいです、建物が決まったというならこれは全然意味が違いますから、教えてください。

回答：決定というのは、この基本構想をどこで決定したのかということで、この構想が案のままではなく、決定したということです。

博物館を造ることが決定かどうかという、あくまでも構想であって、このまま全部いくわけではありません。

これから皆さんの意見を聞くなど、そういう作業がありますよということで、決定の位置がずれているところを、弁明の機会を与えてくれます。

また、真っ黒というのも、そもそも議員さんから反対の意見があった中で、委員さんに迷惑がかかったりしないように、というところがあったものですから、それらを踏まえて議事録を出さないという判断をしたんですが、内容について建設的な意見を頂いている中で、委員さん全員から了解を頂きましたので出すことにしました。議会でも皆さんにお見せするように手続きしてまいります。

質問：一回、設計協議というかコンペを開いたらどうですか。若いデザイナーや一流の設計事務所、富士宮市の方でデザインを勉強している方も参加させて、市民に見せて、これでいいの、いくらなんだというものをもっと単純に分かりやすくすれば進むのではないかなと思います。

回答：現在はコンペに至る以前の状態です。スケジュール表でいくと資料の中で7ページで

す。建物のことでコンペを行うとなるとどういった部屋が必要なのか、どのくらいの面積が必要なのか、展示をどうするのか、(それらの)基礎データが必要になってきます。

これらの検討はまだこれからですので、まずそこを決めてからでないといけないと考えております。

質問：それは違います。コンペというのはその人その人の発想ですから、いちいち決めることではないんですよ。

回答：コンペとなると世界遺産センターでも本当の一流どころが入ってやっていますが、どれだけのお金がかかるかというところになります。デザインよりも身の丈にあった、機能的で目的に合ったもので考えていますので、ぜいたくな形で提案できればいいのですが、ちょっとそこまでいけないなという所がありますので、進んだ中でもっといい物作りなさいよって声が出てきたら、そこでまた考えたいと思います。ありがとうございます。

・質問者②

質問：前回の白糸の説明会も聞かせて頂いたのですが、学芸員さんの話がすごく良くて、博物館って聞いた時に、なんで箱ものを造るの、税金の無駄遣いじゃないのって思ったのですが、説明を聞くとそれなりに価値のある物を造ってもらえるのかなと思ひ、賛成の方向に気持ちが向きました。

市民への周知の方法として、オンラインでの周知の仕方を考えているのかを聞きたいです。博物館の説明会に行く時に、こういうものを聞くんだよと周りに言うのですが、博物館を造ると知らない人が大多数だったので、その辺はいかがでしょうか。

回答：まだ準備が出来ていないのですが、必要だと思いますので、なるべく早く検討して、オンラインでそういったご意見の交換ができればと思います。どのような方法ができるのか検討中です。具体的なことについてはお話できないのですが、ぜひ取り入れていきたいと思ひます。

・質問者③

質問：資料の4、5ページの『施設規模』について、市民が関わるのは5ページの展示公開普及教育等の利用者サービスですよ。

色々な博物館で土器等を公開しているじゃないですか。私もいくつか回ったことがあります、まさに昔の箱物行政なんですよ。施設を造って、その地域の物を展示して終わり、だんだん廃れて、職員は一人か二人です。

そのような状況になってくると思うんですよ。何でそうなるかという、展示しておくだけだからです。

先程から説明の中で、そういうことができたなら素晴らしいなというのがあったので

すが、市民が関わる所で、例えば県立美術館では企画展で人を集め、なおかつ常設を見てもらい、変化というか、動きのある博物館にしていかないと結局箱物行政で終わってしまいます。

こんなものをやったらどうだろうという発想の中で、いかに富士宮の博物館を知って頂くか、その方法は展示だけではないですし、色々な講演もあるだろうし、富士市の人に『富士宮の歩く博物館はすごいぞ、こんなのはめったにないよ、ここまでやっているんならこれを財産にしなきゃもったいないよ』という話を伺ったのですが、そういう所に一歩足を踏み出すために、この博物館の果たす役割は大きいだろうなと思います。

常設展示室、企画展示室、多目的室を埋めたらそれで終わりでは何の価値もないわけですね。そこに、動きのあることがどういう風にしたら出来るのか。どうしたらという所の想像をぜひとも、絶対できるかは別としても方針としては市でやっているの、市の職員がいかに想像力を発揮しながら、市民のために価値ある博物館にしていくということをぜひとも考えて頂けたら大変嬉しいなと思います。

回答：私たちの考えていることを端的におっしゃって頂きありがとうございます。もう一つ考えているのは、ここに調査研究とありますが、これを、できれば主役は市民の皆さん、(そこに)市の学芸員、職員が協力しながら展示として返せるように目指していきたいなと思います。

・質問者④

質問：22億のお金をかけるというのは市民がびっくりしてそんな物やめろと思います。いいもの造るときにそれが2億、3億であがりますと言われたら市民みんな大賛成だと思います。

22億はかかりすぎですのでよく考えたほうがいいと思います。

これはまだ構想ですが、やめたほうがいいです。安ければ安いほうがいいと思います。

回答：我々もできるだけコンパクトで効果的にできるように努力してまいります。

・質問者⑤

質問：私も仕事で全国の郷土資料館、博物館等に行きますが、ほとんど来客がない状態です。

先程おっしゃったように、まず最初に22億円使うということに疑問を持ちました。仲間に聞いても賛成する人は、その事実だけ聞くと一人もいません。

話を聞くと市がすべて運営する、その結果上手くいかない、県が運営しても上手くいないケースがすごく見受けられるので、来てもらうための努力が足りてない部分があって、立地的な部分や人から人への伝達の部分、プロフェッショナルな人の意見等がないと、上手くいくものも上手くいかないと思います。

また、22 億円使うのでしたら確かに 2 億円で出来た方が良くと僕も思います。博物館のイメージはやはり物を見る所、学びに来る所ですので、もし可能であれば 22 億円使う前に、例えば 5000 万や 1 億かもしれませんが、市の方が全力で半年間仮設の博物館を運営して、それを市民に実証した上で次の 22 億円に移る形の方が、市民は納得するかと思います。

失敗例ばかり見てきたので、賛成出来ない部分があり来たのですが、色々話を聞いた上で賛成できるかという賛成できる立場ではありません。

もしやるのであれば、最初に 5000 万、あるいは一億でもいいので、全力でどのような物が出るのかと市民に証明して頂いてから実行に移した方がいいのかなと思います。

回答：そういうこともぜひトライしたいと思います。具体的にどうする、どういう方法がとれるかというのはこれから考えさせていただきますが、一つのご意見としてありがとうございます。

回答：展示したままはよくないとのことで、当然我々もそう思っています。この展示についても学芸員の実力を見せる場だと思います。

学芸員は郷土資料館や埋蔵文化財センターの展示くらいしか出来ませんが、のびのびと色々考えて行えばきっと面白いものになると思います。

今日も聞いて頂いたような学芸員の話は地域の方でも、歴史に詳しい方は物足りないような話がありますが、我々にとっては面白い話、『へえー』って所から入っていきけるので、こういうものを子供たちに伝えていく場も必要で、そういうものの投資として考えていきます。しっかり学芸員を育てながら運営していけば上手くいくと考えていますので、また皆さんにご協力頂ければと思います。